

平成19年 1月29日
近畿日本ツーリスト株式会社
総務・広報部 担当：澤野井
(TEL：03-3257-1661)

旅行取扱状況の概観（平成18年12月分）

海外旅行の取扱額では、学生団体は取り扱い好調を持続したが、一般団体旅行が取り扱い低調で前年に達しなかったため、合計では前年に届かず4ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。企画旅行ではホリデイが堅調に推移し、その他企画旅行も好調で、合計では3ヶ月連続の前年比プラスと好調に推移した。個人旅行はクーポン券の取り扱い鈍化の影響が大きく、前年実績には届かなかった。この結果、海外旅行合計は前年比100.8%と前年実績を上回り、8ヶ月連続の前年比プラスで推移した。

国内旅行の取扱額では、団体旅行は一般団体の取り扱い不振により、合計では前年実績を下回り低調が続いている。企画旅行ではその他企画旅行は好調であったが、メイトの取り扱いが伸びず前年実績を下回ったため、合計では5ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。個人旅行では、宿泊券、航空券の取り扱い不振により、個人旅行計では大きく前年実績を下回った。このため、国内旅行合計は前年比93.3%と前年実績を下回る結果に終わった。

国際旅行は個人旅行の取り扱いが堅調で、前年比100.5%と前月に続いての前年比プラス。

12月の総取扱額は、国内団体旅行・国内個人旅行の不振が響き、前年比95.5%と8ヶ月ぶりに前年実績を下回った。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

好調に推移していた一般団体は、取り扱い件数が減少し大型団体も少なく3ヶ月ぶりに前年実績を下回った。一方、学生団体は、修学旅行・海外研修旅行の取り扱い好調により、7ヶ月連続の前年比プラスと好調に推移した。団体の方面別取り扱いでは、中国、韓国、シンガポール、ヨーロッパが好調であった。

(2) 企画旅行

ホリデイは取扱額前年比103.7%、取扱人数前年比97.6%と、取扱いは堅調に推移している。取扱額と取扱人数の乖離は燃油サーチャージの影響が大きい。ホリデイの方面別取り扱いでは、中国、香港および東アジアのリゾート地が好調であった。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は大型団体の取り扱いも少なく取り扱いが低調で、大きく前年実績を下回った。学生団体は修学旅行、校外研修等の取り扱い件数は増加したが、前年実績を超えるまでには至らず3ヶ月連続の前年比マイナスで推移した。

(2) 企画旅行

メイトは、取扱額前年比98.3%、取扱人数前年比94.4%と取り扱いが鈍化し、前年実績には届かなかった。

商品別の状況では、北海道、沖縄方面は好調を持続したが、九州方面、東京地区商品が低調であった。

(以 上)